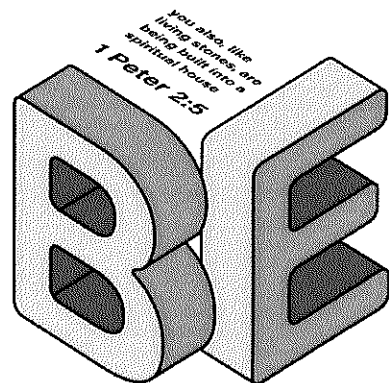


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。
(ペテロの手紙第一 2章42節)

2025/8/11(月)

Ⅱ列王記 9:14-37

登場人物を整理しよう！

- ・エフー：イスラエルの軍の隊長
- ・ヨラム：イスラエルの王
- ・アハズヤ：ユダの王

●エフーの信仰について考えてみよう。彼は何に対して怒っていたか(22)、また、ヨラムの父アハブやイゼベルに語られた主のことばをどのように覚えていたか(25,26,36,37)。
●エフーはユダの王も殺したけれど、それは神様から命じられていないことだった。あくまでも主が語られたことに忠実であるためには何が必要だろう？ 私たちも、みことばに従うとき、行き過ぎや過ちから守られるように祈ろう。

2025/8/12(火)

Ⅱ列王記 10:1-17

9:6-10で預言者によって語られた主のことばに対して、エフーがどのように行ったかを見よう。

- アハブの家に属する者たちはどうなったか。
- サマリヤに行く途上で、エフーは何も知らないアハズヤの身内の者たちをも殺してしまう。これは神様のみこころではなかった。
- 「主に対する熱心さ」はエフーの行動にどのように表れているだろうか。良いところと悪いところを考えてみよう。

2025/8/13(水)

Ⅱ列王記 10:18-36

●エフーはイスラエルからバアル崇拜を根絶するために、何をしたのだろうか？

- 29節「ただし」から続く箇所を読もう。「金の子牛に仕える」とはどのような罪だったか。これは初代イスラエルの王ヤロブアムが、民の心を北王国につなぎとめるために作ったものだった。エフーがこの罪深い行いから離れなかったのは、彼のどのような不信仰が表れているだろうか。
- 一見信仰のある行いをしているようでも、そこから神様への愛が抜け落ちてしまったらどうなるだろうか。私たちの心の思いを確かめよう。

2025/8/14(木)

Ⅱ列王記 11章

●アタルヤはどうやって権力を握ろうとしたかな？ 1節

●アタルヤは最後どうなってしまったかな？ 20節

●この箇所は、アタルヤが国を乗っとうとしたけど、ダビデの血筋じゃないからヨアシュが立てられた箇所だね。アタルヤはヨアシュが隠れていた6年間で民のここをつかむことができなかったんだ。神様は約束を守られる方だよ。ヨアシュもダビデとの約束を守るためにアタルヤから守られたよ。そんな神様との約束を知るためにこれからも聖書を読んでいこう！ 今日神様に守られるように祈って出て行こう！

2025/8/15(金)

Ⅱ列王記 12章

●神殿に捧げられた献金の管理や会堂の修理について、最初は祭司たちが管理して責任を持つようにされた。6vを読むとその方法はうまくいったかな？

●そこでエホヤダは別の方法に切り替えたね。どんな方法だったかな？ 9-12v

●一つの方法に固執すると、本当に大切なことができなくなる、ということがあるね。その時は神様に別の道を示してください、と祈ると良いよ。

2025/8/16(土)

Ⅱ列王記 13章

北イスラエルの国でエフーの子エホアハズが王様になったね。エフーの時代にバアルの神殿などは壊されたけど、根っこの部分では偶像礼拝の罪からは離れられず、それはエホアハズの代でも変わらなかったんだ。

そんな中、預言者エリシャはこの地の生涯を閉じた。ヨアシュとの会話でも分かるように、その間際でも彼は神様のことばを語るものとして生きたし、死んでからも神様は彼を通して不思議なことをなされた。

長い間罪のうちを歩むイスラエル、実際の危機、預言者の働き、すべてを導かれる神様は、どのように人々を見ていただろう。この箇所を通して神様は君になにを語っているかな？ 祈って聞いてみよう！

2025/8/17(日)

Ⅱ列王記 14:1-16

ヨアシュの子アマツヤは王として、「主の目にかなうことを行った」と書かれています。

しかし、民たちが偶像をささげる場所を取り除かなかったり、アマツヤ自身も偶像礼拝を捧げていたことも記されています。(Ⅱ歴代25:5-14) このように、信仰をもちながらも、いつも神を第一にして歩んでいるわけではありませんでした。

このような信仰を見て、私たちはどのように感じるのでしょうか。自分自身の信仰にも、「このぐらいでいいか」としているところはないだろうか。アマツヤの姿と自分の信仰に重なるところはないのでしょうか。静まり、考えてみよう。